

第3回 千葉県地方創生総合戦略策定懇談会 開催概要

- 1 日時 令和6年1月30日（火） 午後2時～4時
- 2 場所 千葉県庁本庁舎5階大会議室
- 3 出席者 明石座長 増田副座長 近藤委員 境委員 畷津委員 庄司委員 関委員
矢萩委員 吉野委員

4 議事概要

・第3期千葉県地方創生総合戦略

～デジタル田園都市国家構想の実現に向けて～ 原案について

○明石座長

では、最初に事務局より、第3次千葉県地方創生総合戦略原案につきまして、ご説明をお願いします。

○池田室長

政策企画課政策室長 池田でございます。よろしくお願いいたします。私から資料1 戦略の概要につきまして説明をさせていただきます。

それでは、まず、戦略の構成でございます。戦略は、千葉県を取り巻く様々な現状を整理するとともに、長期的な展望や目指すべき基本的な方向性を提示する第Ⅰ章 千葉県人口ビジョンと、第Ⅰ章で示しました基本的な方向性をもとに、具体的な取組を整理した第Ⅱ章 第3期千葉県地方創生総合戦略で構成されております。

第Ⅰ章では、千葉県を取り巻く現状等としまして、人口や人口動態に加え、就業や産業等の状況を記載し、千葉県における長期的な展望として、人口の将来見通しや地方創生に向けて目指すべき理想像を記載しているところでございます。

第Ⅱ章では、計画期間や施策の方向性として、基本目標や地方創生におけるデジタルの活用を記載したうえで、基本目標ごとに、具体的な取組内容等を取りまとめております。

2 ページ目を御覧ください。

第Ⅰ章 人口ビジョンのうち、人口の将来見通しをこちら記載しております。左側の図が、国立社会保障人口問題研究所が、令和5年に公表した日本の将来人口でございます。2020年の1億2,615万人から、2070年には8,700万人まで減少すると推計されております。右側の図が県総合計画で提示しました千葉県の将来人口見通しでございます。2020年に628万4千人であった人口は、2060年には514万8千人まで減少すると推計してございます。

3 ページ目を御覧ください。

左側が県内各ゾーンの人口動態の状況で、地域によって社会増減に大きな差がありますが、いずれの地域においても、外国人につきましては社会増となっております。それから右側の上の図が東京23区との転出・転入の状況で、こちらは感染症の影響もございまして、2020年以降、転入超過に転じております。ただ、転出を年代別に見ますと、20歳代の若者

の割合が半数以上を占めており、今後の課題と認識してございます。右下の図が、在留外国人の推移でございます。2022年には17万6,790人となっており、2018年と比較しまして、16.2%増加をしています。

これまでの策定懇談会におきまして、国内外の他の地域からの流入を意識した方が良いという御意見や、人口を維持するため、外国人に来てもらうための施策を念頭に入れて欲しいといった御意見があったことから、県内各地域における人口動態の状況の中に外国人の移動状況を追加いたしました。さらに在留外国人の推移につきましても、今回の第3期戦略から新たに記載することとしたところでございます。

4 ページ目を御覧ください。

上の図が本県の有業者の推移でございます。年齢区分で見ますと減少傾向にありました15歳から64歳の生産年齢人口がわずかですが、2022年には増加に転じまして、2002年と同程度まで回復してございます。下の図が有業率となっており、2022年の女性の有業率は2017年と比べまして、ほとんどの階層で上昇しておりますが、いわゆるM字カーブの傾向は依然として見られてございます。ただ第2期戦略策定時と比較しますと、このM字カーブはやや緩やかになっております。

5 ページ目を御覧ください。

上の図が製造品出荷額でございます。2021年には前年より上昇し、全国8位となっております。また、京葉臨海コンビナートを擁する内房ゾーンが最も高く、ほぼ半分を占めている状況でございます。下の図が農業産出額でございます。こちら年々減少しておりまして、特に2021年は、本県で発生した鳥インフルエンザの影響もございまして、全国順位も6位となっております。

なお、こちらの表は市町村別農業産出額を転記しておりますが、2022年のものがまだ公表されていないため、記載しておりません。ただ、都道府県別は公表されており、こちらは大根やニンジンなど主要園芸品目で価格が上昇したことなどにより、3,676億円に増加し、全国順位も4位に上昇をしているという状況でございます。今申し上げた2022年の農業産出額につきましては、資料3 第3期戦略の基本目標1の数値目標の現状値には記載をしているところでございます。

6 ページ目を御覧ください。

こちらが第2期総合戦略を踏まえた第3期総合戦略における課題を整理したものでございます。こちらは策定懇談会の中で、第2期戦略の総括を踏まえた上で、第3期戦略を改訂してもらいたいといった御意見を受けまして、記載をしたものでございます。

第2期戦略にあったものと大きく異なる点といたしましては、「活躍する」の箇所となり、多様性の観点、リカレント教育・リスキリング、地域のブランド化につきまして、新たに記載しているところでございます。

また、課題として、デジタルを新たに入れたということをはっきり見せる必要があるとの御意見をいただきましたので、一番下のところに、「なお、このような課題に対し、デジタ

ルの力を積極的に活用しながら、解決していくことが重要である」という文章を追加したところでございます。

7 ページ目を御覧ください。

こちらは目指すべき理想像として、千葉らしいライフスタイルの創造を掲げまして、6つのライフスタイルを例示してございます。こちらは、第2回策定懇談会でお示しさせていただいたものとあまり変わっておりませんが、1点、「千葉で広がる！趣味に全開ライフ」につきましては、前回までは、「遊び尽くす！趣味に全開ライフ」としていたところを「遊び尽くす」という表現は刹那的な印象を持たれる恐れがあるとのことで表現を再考した方が良いのではないかということを受けまして、「千葉で広がる」に修正をしたところでございます。

また、若者のライフスタイルや半農半X、今暮らしている人のライフスタイル等を考えたらどうか等の御意見をいただいたことを踏まえ、今回お示している6つのライフスタイルに惹かれた千葉への人の流れを一過性で終わらせるのではなく、様々な人に受け入れられ、千葉に人が集まり、その集まった人が若者や新しいことにチャレンジする人々を惹きつけるライフスタイルを作り出すことで、新たな「千葉らしいライフスタイル」を創造していく好循環を目指すという文章を追加いたしました。また、新たな「千葉らしいライフスタイル」には、今ある暮らしを発展させる意味も込めているものとなっています。

8 ページ目を御覧ください。

ここからが第Ⅱ章の第3期千葉県地方創生総合戦略の説明となります。

施策の方向性、基本的な方向性、基本目標は、これまでの策定懇談会で示しましたものからほとんど修正はしておりません。1点だけ、基本的な方向性におきまして、委員から育みに子どもの視点を入れて欲しいとの御意見がございましたので、「育み・育つ」と修正してございます。基本目標3の囲みの中も同様に修正してございます。

9 ページ目を御覧ください。

こちらは第3期戦略のイメージとなっております、デジタル技術を活用しながら、基本目標を達成し、それが地方創生の実現・深化につながり、千葉らしいライフスタイルの創造に向かっていくことを、図として示させていただいたものでございます。

10 ページ目を御覧ください。

この戦略は、国のデジタル田園都市国家構想総合戦略を踏まえ、策定するものでございますので、地方創生におけるデジタルの活用を新たに加えたものでございます。これまでの策定懇談会におきまして、なぜデジタルの活用が重要であるかということをご丁寧に説明してもらいたいといった御意見をいただきましたので、それを踏まえて、「地域社会の生産性や利便性を高めるとともに、サービスや製品などの開発につなげ、新たな価値を生み出すことで、地域の活力を維持向上させさせていく必要がある」という文章を追加したところでございます。

また、デジタル化は人や暮らし、仕事をうまくサポートできることを県民に認識してもら

える戦略としてもらいたいといった御意見を踏まえまして、県のデジタル・トランスフォーメーション推進戦略をもとに、「デジタルには自動化、見える化、最適化、つながる、分かち合う「シェアリング」、個々に合わせる「パーソナライズ」など様々な可能性がある」という文章を追加しまして、県民にデジタルの可能性がわかりやすいようにしたところがございます。

また、国全体のデジタル化がうまくいっていない中、千葉県として、少し違うような特徴のあることも書いていく必要があるのではないかという御意見を受けまして、「千葉県は日本の縮図と言われており、都市部と地方部で活用条件が異なっており、さらに地域ごとに必要となるデジタル技術やデジタル人材の育成状況も異なっている」という文章を追加したところがございます。

12 ページ目を御覧ください。

ここからは、基本目標ごとに取りまとめました取組につきまして、抜粋して記載したものでございます。

まず、基本目標1 地域経済を活性化する環境づくりでございます。

こちらは委員から、生産コストの価格上昇を農畜産物の販売額に転嫁することが困難になっている、ICTの力でサポートすることで、稼働を減らし、収益をある程度確保することできるといった御意見を踏まえまして、スマート農林水産業の加速化を、このように記載したところがございます。

また、本県は、成田空港を擁していることから、成田空港にかかる取組を記載しております。

13 ページ目を御覧ください。

こちらが基本目標2 多様な人材が活躍できる社会づくりでございます。

デジタル田園都市国家構想を踏まえての戦略ということで、デジタルを活用した取組として、テレワーク・ワーケーション等の推進を記載しております。

また、本県は半島であることから、それを克服する取組として、高規格幹線道路等の整備促進や、委員から、労働者、働く人の学び直しは大事、雇用形態や企業規模・障害の有無にかかわらず、希望する誰もが、リカレント教育などの職業能力開発機会を確保できるよう、強化が必要であるなどの御意見をいただきましたので、それを踏まえまして、リカレント教育、リスキリングの推進を記載したところがございます。

14 ページ目を御覧ください。

基本目標3 子育てしやすい社会づくりでございます。

こちらは12月に開催しました第2期戦略の進捗管理の会議でもお示しをさせていただきましたとおり、子どもを生み育てやすいと感じる家庭の割合が、令和4年度に急落をしております。こちらの要因の1つとして、物価高騰が影響し、教育費の負担軽減や、経済的負担の軽減の要望が増えていることが推測をされましたので、子育てに要する経済的負担の軽減を、このように記載したところがございます。

また、委員から、地域から人が流出していくことを食い止めるため、高校で地域産業に触れる機会を作る必要があるとの御意見を踏まえまして、キャリア教育の推進を記載したところでございます。

15 ページ目を御覧ください。

基本目標 4 県民が暮らしやすい地域づくりでございます。

令和元年房総半島台風や、先日の能登半島地震など、大きな災害が生じておりまして、県民の安全の確保に対する期待が高まっていることから、安全に暮らせる環境の整備の中に、デジタルを活用した安全な地域づくりの推進を新たに加えたところでございます。

また、千葉県誕生 150 周年でございますので、これを契機に、さらなる振興を図るため、文化技術の振興を、このように記載しているところでございます。

最後に県行政DXの加速化でございます。委員から行政が持っているデータを民間が活用できるようにすることが、行政ができるデジタル化と考える、生成AIをどう活用していくのかを入れるべきとの御意見をいただきましたので、それを踏まえて、このように文書を作成したところでございます。

最後に、今後のスケジュールにつきまして、本日の策定懇談会の後、2月にパブリックコメントを実施して、その意見を反映した上で、3月に戦略を策定することを予定しております。

私からは以上でございます。

○明石座長

池田室長ありがとうございます。

では、続きまして、角田主幹からお願いします。

○角田主幹

政策企画課の角田と申します。よろしく願いいたします。

私からは、事前に原案のたたき台を、委員の皆様方に見ていただいた際の御意見とその対応内容について簡単に説明させていただきます。

まず 1 点目、ナンバーが左側に書いてありますので、その順に説明させていただきますと、この前の原案においてはマル印で課題が書かれておりまして、その下に、現状や問題点がポツ印で記載されていましたが、わかりにくいという御意見いただきましたので、これを、1つの文章にまとめて、前段に問題点を揚げ、課題を後段に記載をするという形で、1つの文章にし、わかりやすいよう整理したところでございます。

続きまして、デジタルの活用は、生産性や利便性の向上という効率的なものだけではなく、新しいものを作り出して、付加価値を生み出すことにも繋がることも意識した方が良いという御意見をいただきました。その意見につきまして、従前の記載では、「地域社会の生産性や利便性を高める」というような生産性や利便性だけにフォーカスをしていましたが、「サービスや製品などの開発につなげ、新たな価値を生み出すことで、地域の活力を維持・向上させていく」という文章に修正させていただきました。

また、ナンバー3、共通事項・共通政策として、デジタル人材の育成という項目を設定することはできないかとの御意見がありました。地方創生総合戦略の枠組みとしまして、デジタル人材の育成は、概ね国の役割分担であるとしており、国の方で大学にデータサイエンスを入れるような取組を行っております。県としてもデジタル人材の育成について、国に全て任せるというわけではなく、御意見を踏まえまして、地方創生におけるデジタルの活用のところ「デジタル化を担う人材の育成が重要である」という文章を入れさせていただきました。また、具体的な取組としましては、室長からも説明がありましたが、リカレント教育・リスキリングの推進に、ITをはじめとした仕事に必要な技能や知識の習得、DX人材の育成を進めていく」と具体的な取組を記載させていただいているところでございます。

続きましてナンバー4、千葉県は1都3県の中でも比較的土地が安く、企業からの産業用地の購入ニーズが高いと感じており、そのようなところをより強調した方がいいのではないかという御意見です。こちらにつきまして、本県の産業用地の様々な魅力、高速道路などの優れた社会基盤が評価されていることなどを、29ページの本県の特徴を生かした企業誘致の推進に記載をしております。土地の安さや、安定した雇用も大きな魅力であると我々も考えておりまして、企業誘致セミナーや企業訪問を通じて積極的にPRしていきます。

続きまして、ナンバー5、KPIとしてブランド化した或いはブランド化が見込める新商品・新サービス数を追加するのはいかがかという御意見がありました。これにつきましては、県の取組として、ちばのキラリ商品支援事業を実施し、県内中小企業と農林漁業者等とのマッチングイベントを開催しています。また、地域内の連携を促進し、個別マッチング等に対応しています。ブランド力の強化のため、マッチングイベントや地域連携の取組を行っていることから、このKPIとしては、「マッチングイベント及び地域連携コーディネーター等によるマッチング件数」が良いと考えています。また、KPIとしてブランド化したとしまうと、何をもちょうブランド化とするのかが、定義が難しいというのがありますので、このようなKPIを立てさせていただいたところでございます。

ナンバー6、起業・創業につきまして、懇談会前の記述では、若い世代に起業を身近に感じてもらうという形で記載しておりましたが、起業・創業は若い世代だけのものではないとの御意見や、色々な主体のコラボが必要なのではないかという御意見をいただきました。

県の取組として行っている、優秀な起業家を発掘、育成をする事業は全世代をターゲットとしていますので、「若い世代にも」という形で、修正させていただきました。起業を身近に感じてもらう取組は若い世代を中心に行っているという形にし、前段と後段とで書き分けをして、わかりやすいような文章とさせていただきます。また、コラボにつきましては、「さらに」以下の文章で「千葉県産業振興センターをはじめとする各支援機関と連携して」という文章を付け加えさせていただいたところでございます。

ナンバー7につきまして、観光のKPIは、特性の違いから地域格差が大きい項目であることから、県のエリアを2、3に分けてトレンドを分析した方がよいのではないかとの御意見がありました。こちらにつきましては、県で毎年、観光客入込動向調査を実施してござい

て、この中では千葉地域、東葛地域など県内を 10 地域に分けて結果を分析しております。観光担当課では、そういったことを踏まえ、施策を実施しているところがございます。ただ、第 3 期総合戦略については、より大きな視点から全県的な戦略を立てるものであることから、地域別ではなく、全県での指標とさせていただいております。

続きまして、ナンバー8、インバウンドについて、インフルエンサーを活用した発信も検討したら良いとの御意見でございます。県の取組としましても、インフルエンサーを活用して、情報発信をしているという事業もありますので、インフルエンサーだけでなく、「ホームページ、SNS、インフルエンサー等を活用した」という文章に修正させていただいております。

次に、ナンバー9、物流施設についての記載を入れた方が良いとの御意見につきまして、確かに県内で物流施設の立地は増加しておりまして、特に成田空港近隣で、複数の施設建設計画が進んでおります。そこで 39 ページに、成田空港周辺地域における国際的な産業拠点の形成という項目において、「航空物流拠点をはじめとして、成田空港を核とする国際的な産業の拠点形成を進めていく」と記載しております。

続きまして、ナンバー10、基本目標 2 にデジタル技術の活用に関する記述がもう少しあってもいいと思うという御意見につきまして、基本目標 2 の冒頭の文章に、「デジタル環境の整備状況を踏まえ」という文章を追加し、これを踏まえながら、テレワーク・ワーケーション等を進めていくという形に修正いたしました。まだまだ、半島の先の方に行くと 5G が、まだ入っていないところもありますので、地域のニーズに合った、取組を進めていく必要があると感じている次第でございます。

ナンバー11、ブランディングを推進する PR として、テレビ、ラジオ等を活用しているとしているが、この件数が思うように伸びていない。今はサブスクリプション型動画配信サービスや、広告型動画配信サービスなど、新たな形で動画を楽しむ時代になっている。県の KPI ではメディア、特にマスメディアに取り上げられた件数を設定していますが、そのメディアは何をするかと最新の動向をとらえて、検討することが必要ではないかとの御意見をいただきました。おっしゃる通り、動画配信サービス等の利用が増加傾向にあるということは承知をしておりますが、民間事業者が公表した、メディア利用時間に関するデータによりますと、動画配信サービスの利用者であっても、一番利用時間が長いメディアは依然テレビであるとの結果が出ております。また、昨年、総務省が発表した調査によりますと、情報の信頼度はテレビがインターネット上回っているとのこと。そのようなことから、今回 KPI としてメディアに取り上げられた件数をブランディングの指標として置かせていただいておりますが、いただいた御意見のように、常に最新の動向をとらえながら、適切な媒体を考えていきたいと考えております。

最後、ナンバー12、育つ主体である、子どもの権利が守られ、子どもや若者の声が反映される機会の保障が必要ではないかと感じたという御意見につきまして、今回、国はこども大綱を策定しておりまして、その中でも、子どもの参加や権利を守りなさいと書かれています。

そういった大綱の趣旨をしっかりと踏まえながら、県においても総合的な子ども関連施策に取り組んでいきたいと考えており、「国のこども大綱を踏まえ、県においても総合的な子ども関連施策に取り組んでいく」という記載をさせていただいている次第でございます。

今回、皆様からの御意見の中から抜粋したものを説明させていただきました。色々な御意見をいただきまして、より良い戦略になったと思っております。御意見をいただきまして、ありがとうございました。

○明石座長

はい。どうもありがとうございました。

ただいまの事務方より、原案の概要と委員の意見の対応状況について説明がありました。

これからは委員の皆様から、意見をいただきたいと思っております。まず、戦略を実現するために必要なことや、具体的な取組のアイデア、県民への周知の仕方等、様々な視点から、各委員の御意見をいただければと思っております。大体1人当たり三分程度の時間を、用意しておりますのでよろしくお願いいたします。

今回はご都合により、途中退席される方が2名いらっしゃいますので、その方から意見を伺いたいと思います。庄司先生、お願いします。

○庄司委員

資料1で外国人の人口に注目されたところがありました。これからの日本を考えると、外国人人口はますます増えていくと思われまます。人口増加の面でも、外国人がどれだけ増えるかということは、大きなテーマになってくるだろうと思っております。今後、総合戦略を考えていく時、外国人の方が、どの様な方なのかということをもっと細かく見ていかなければならないと思っております。資料1では国籍のことが書かれていますが、年齢、目的、職業、或いはどの地域にどの程度いらっしゃるのかといったことを、より具体的に見ていく必要があるのではないかと思います。それがおそらく、人口政策、観光産業など様々な部分で行政においても重要になってくると思っております。

続きましてデジタルで横串を刺していくとのことですが、ここで、確認しておきたいのは、デジタル技術に、かなり大きな期待がかかっているように見えることが若干心配ではあります。ここで言っているデジタル技術というのは、機械やアプリだけではなく、そのデータを活用するというのも含んでいるのだろうと思っております。その点は10ページの説明の中で、デジタルには、こういう良いところがありますといくつか挙げてありましたので、大丈夫かなと思っておりますが、何か便利な道具が何でもやってくれるというだけじゃなく、私たち自身がデータを活用して、より効果的に様々な施策を進めていくということをここで確認していければと思います。

もう1つ、細かいことですが、このデジタルに関して、表現が揺れているところが気になりました。デジタル、デジタル技術、ICT、それからITという言葉も入っていました。言おうとしていることはほぼ同じだと思うので、なるべく揃えた方がいいかなと思っております。文脈によっては、ここはデジタルではなくICTでなければならぬところもあると思

ますが、できるだけ揃えた方がいい。

次に、デジタルに大きな期待がかかるのはとても良いことですが、今、政府において、デジタル行政改革を進めています。だんだん見えてきたのは、デジタルに力を入れるとお金がかかるということです。これから私たちの社会は、人口が減っていつてしまうので、人はもう増やせない。デジタルで解決していくということは、仕方がない、間違っていないとは思いますが、お金がかかるということについては、考えていく必要があるだろうと思います。ただ、必要な投資はしっかりやっつけていかなければならないので、より効果的になるような、デジタルの投資をしていきたいと思います。

そして最後に、やっぱりデジタル人材をどう育成していくのかということが非常に重要だと思っています。デジタルというどうしても、ピラミッドの頂点にいるような先端的な人材を、大学に育ててもらおうという話になりがちです。それも重要ですが、底上げも重要だと思っています。デジタル技術を社会で色々なところに入れていくのであれば、ほとんどの人が初めて使うツールに触れる機会が増えます。そういう意味で、ピラミッドの頂点を伸ばすだけでなく、その下を上げていく底上げをしていくような、誰もがデジタルに慣れ親しみ、学んでいけるような観点も必要ではないかと思いました。

○明石座長

はい。庄司先生ありがとうございました。個人的にはかなり私と重複する考えだと思いました。

まず外国人の、雇用や定住も含めて、細かなデータの収集はやっていただきたいと思います。今、千葉県だけでも、約18万人の外国人の方がいらっしゃいますから、ますます増えてくると思います。

また、デジタルはお金がかかる。例えば小学校中学校でタブレットが1人1台配布されましたが、3年後には更新しなければならない。文科省は、その予算を折衝していますが、デジタルにはお金がかかるということを頭に置いていただくと良いと思っております。

それで、庄司先生、この原案は2月に意見募集を実施し、県民に知っていただきますが、どのようにすれば、県民の方が総合戦略原案を理解してくれるか、そういう意味で、キャッチコピーや、戦略を一言でこう表現できるなどありましたら、お願いできませんか。

○庄司委員

やっぱり、皆で考えましょう、皆で作らしましょうと、参加を促すようなキャッチコピーが良いのではないかなと思います。戦略を作ったので、皆さんやりましょう、やってくださいというのではなく、皆で作らしましょうという参加を促す観点が、良いのではないかなと思います。ソーシャルメディアなどを通じて、参加しやすい動線を作っていくということとあわせて、そういった参加を促すキャッチコピーをお勧めしたいと思います。

○明石座長

はい。先生の貴重な意見ありがとうございました。

では続きまして、関先生、お願いします。

○関委員

はい。戦略を拝見して非常に広い内容が、適切にまとまっていて、1つの案になっているので、よくできているのではないかと考えております。

これからパブコメをいただく時に、今日見せていただいた概要を一緒に見せるのか、それとも、概要は今日だけの資料なのでしょうか。

というのは、概要だけ見ると、概要は原案をピックアップしたものになっていて、あまり繋がりが良くない。例えば、人口ビジョンの最後のところに、6 ページ目に課題を書いて、7 ページ目は、ライフスタイルの創造という直接プロセスが結びつかないものが並んでいるので、概要だけにするのはあまり良くないかもしれないと懸念しました。

戦略原案の方ですが、これは意見照会をいただいた時もコメントしましたが、24 ページ目ぐらいから「2. 施策の方向性」という項があり、「(1) 序論」、「(2) 基本目標」が書かれてあって、今回はデジタルのことということで、「(3) 地方創生におけるデジタルの活用」がありますが、その次に、「4 豊かな自然環境の保全」が書かれています。千葉県最大の財産である自然環境のことを保全するというのを、非常に大きく、4つの項のひとつとして特出しして、冒頭に書いてあります。それはいいことだなと思いますが、それに対応する内容が戦略の中にはあまり書かれていない。自然環境を保全する、自然環境があることが、千葉県にとって非常にいいことだと書いていますが、実際に戦略には、保全に関する内容が、自然環境保全地域を保全するということが、少し書かれているだけ。だから、もう少し自然環境をどういうふうにするのかということ、このところだけじゃなく、ある程度あった方がいいかなという印象を持ちました。

人を呼び込む上でも、豊かな自然環境があることが重要になってきますし、自然環境というのをどういうふうに記述するのか、デジタルについては多様なことが書いてありますので、自然環境はそういう意味でも、少し限定的になっているので、冒頭でこのように立てているのであれば、もう少し戦略にも書かれていると良いかなという印象を持ちました。

それに関して言うと、原案への意見照会の際、私から、自然環境の保全が唐突に付け加えられた感があるため、基本目標との関係性を明示しておくような建付けにした方が良いのではないかというコメントをしたので、冒頭の文章を書き直していただいて、「本県の豊かな自然を次世代に引き継いでいく必要がある」という文を、本県の豊かな自然を次世代に引き継いでいくことが、地方創生の実現に必要な」と、自然環境を保全することが大切だという意味合いを、強調していただくために、付け加えていただきました。その文章が具体的に言うと、27 ページの第2段落の最後のところになります。ただ、こちら「必要がある」となっていますが、「必要である」の方が良いかなと思います。

以上でございます。

○明石座長

はい。4の豊かな自然環境の保全は非常に、千葉県にとっては一番大事なところだと思います。ありがとうございました。

これで関委員にもお願いしたいのは、この原案を県民の方に知ってもらうために、何かこういうふうによれば、この原案が県民の方に届くという案がありましたらお願いします。

○関委員

これはよく言われているように、文字だけでは中々見ていただけないので、やっぱりポンチ絵みたいなもの、原案から想像されるイメージのようなものを数枚で作っていくのがいいのではないかなという感じを持っています。この長い文章を読むのは大変ですので、まとめたポンチ絵みたいなものを1枚2枚作って、それはここを見ればわかるというような感じにしていくのが良いかなと感じました。

○明石座長

はい。その辺は事務方と検討していきたいと思っております。ありがとうございました。

角田主幹、どうぞ。

○角田主幹

はい。関委員からの御意見に対して答えさせていただきます。

パブリックコメントにつきましては、当然、概要だけではなく本文もしっかりと公表して、県民の皆様に御意見を伺いたいと思います。

○関委員

概要を見せるのであれば、「概要」と「本文」が両方あったら、普通「概要」の方を見るので、県民が見る方がちゃんとなっていないといけない。誤解されないようにしなきゃいけない。本文を見ていただくことはあまり期待してはいけなくて、「概要」に何が書いてあるかが、上から読んですっと落ちていくようにしたい方がいいかなと思います。「概要」は、ピックアップしてこう並べたみたいになっていたのも、「概要」だけ見ても、わかる方がいいかなという感想を持ちました。

○角田主幹

はい。わかりました。ありがとうございます。

次に自然環境につきましては、例えば、「活躍する」のところで、二地域居住のところや千葉らしいライフスタイルのところに、しっかりと自然環境を千葉に人を呼び込むための1つのキーポイントとして使わせていただいています。

○関委員

豊かな自然環境のもとで仕事をする、暮らすということは書かれている。それは書かれています。ただ、今の自然環境を保全するために何をするかということがあるといいと思っただけのことです。自然環境があるから千葉に人が来るし、千葉で働いてみよう、千葉で暮らしてみようと書かれています。そのために、何をするかということは特に書かれているわけではない。保全というのだったら普通は「どうやって増やしていこう」や「守ろう」など、そういう方法が書かれていてもいいかなと思います。特にそれは書かれていないので、何かないのですかという疑問です。

○角田主幹

はい。わかりました。ありがとうございます。検討させていただきたいと思います。

○明石座長

はい。続きまして、寫津委員お願いできますか。

○寫津委員

私は事前に意見も出させていただいて、真摯に受けとめていただいていると思っていますので、特に意見はないです。

どうやって戦略を普及するかということについては、やはりインターネットなどで、どうやって若い人達を呼び込んでいくかが鍵ではないかと思っています。

○明石座長

はい。ありがとうございました。

では、近藤委員、よろしくお願いします。

○近藤委員

皆さんがおっしゃっているように、これまでの意見が反映されていて、私からこれ以上というところはないのですが、気づいたところをお伝えさせてください。

K P I 全体の話になりますが、例えば、32 ページの最初にある産業振興センターにおける窓口相談件数について、目標値が現状値を下回っているのですが、すごく違和感があったので、ここはなぜかということが知りたいと思います。その下の産業振興センターにおける専門家派遣企業数も現状値よりも目標値が下がっていて、普通は上げていくものだと思いますが、何か理由があるのかなあというのを見ていて感じました。

細かい話で申し訳ありませんが、県立高等技術専門学校における在職者訓練事業の受講者数は、上がってはいますが、4人しか増えてない。これは、例えば上限値があって、200人しか受け入れられないので200人になっているのでしょうか。目標値については、強気な指標がある一方で、少なくなっていたり、ほぼ同じ水準のものがあったり、その辺について、説明があったほうがいいかなと思います。

先程のデジタル技術でできることについて話がありましたが、32 ページア. 中小企業の経営基盤強化の3行目、「デジタル技術の活用など新たな取組を進めていく」というくだりで、デジタル技術の活用と言われても具体的にわからないということを感じまして、今、国として、デジタルを使った省力化や効率化というのを進めているので、ここをそれに合わせ、デジタル技術を活用した省力化・効率化のように記載してみてもいいのかなと感じました。

次に、K P I の数字として、34 ページにマッチングイベント等によるマッチング件数は、5年間で件数が増えないとか、企業支援センターに起業・創業相談件数は、6件しか増えていない。M I C E の誘致として、国際会議開催件数を設定していますが、現状1件が、120件、120倍になっている。これはおそらくコロナの時だから開催されていなかったと思うので、参考値として2019年の数値を入れておかないと本当に実現可能なのかなと見て感じましたので、追加で情報があるといいなあと感じました。

同じようにK P I の数字で35 ページ、これは農業の話になりますが、ここは具体的に数

字が入っていないので、例えば、金額が難しいのであれば、何%アップなどの表記にできないのかなと思いました。

最後に、40 ページの交通ネットワークの強化の話なのですが、先日も京葉線の快速を減らすことが発表され、市から要望を出してらっしゃいました。私も、これはすごく問題だと思っていいです。そもそも交通手段がないから人が来ない。人が来ないから交通手段が少なくなっていく負のスパイラルが起こっていると感じています。

実は京葉線は前にもこのような現象が起こっていて、去年か一昨年だったか、ダイヤ改正で木更津より向こうの本数がすごく減って、かつ、車両の数も減らされてしまった。2両しか走ってなく、そうすると田舎ののどかなところへ向かおうとしているのに、電車に乗ったら混んでいることが起こっていて、本当はそこから止めてほしかったと私は感じています。

この交通ネットワークの強化のところで、公共交通機関に関しても、強化するようなサポートは欲しいなと思っています。JR等と一緒にやってやることになると思いますが、その成果として例えば、K P I として県内の主要駅乗降客数等の数字を置いてもいいのかなと思います。

○明石座長

はい。ありがとうございました。

近藤委員、県民に戦略を伝える方法としては、何かありましたらお願いします。

○近藤委員

熊谷知事からおっしゃっていただくなどでしょうか。あと、先程、戦略を全て読んでもらうのは難しいなどの発言がありましたが、簡単に説明できるような資料があってもいいのかなと感じました。

○明石座長

はい。私もホームページでチーバくんがここを押せば、すぐ次の画面が出てきて説明するというふうにチーバくんを上手に活用することが良いと思っています。ありがとうございました。

○角田主幹

今、委員からありましたK P I の質問について、一部答えさせていただきます。

例えば、産業振興センターに関わる指標については、物価高騰等の影響により経営支援ニーズが高まっており、現状値が大変高くなっております。今後、平準化していくことを考慮し、過去の実績を踏まえ、過去5年の平均を目標値としています。また、他の現状値と目標値が2、3といった細かい増加になっている指標も、コロナの影響等で、現状値が高くなっており、その辺も踏まえて目標値を設定していると聞いております。

また、国際会議開催件数につきましては、おっしゃる通り、コロナの影響で大幅に減っていますので、確かにこれだけではわかりにくいので、検討させていただきます。

35 ページの農業関係につきましては、例えば、新規就農者数は年々減っている状況にある中で、県としては、増加を目指したいという、現状のベクトルを逆にするという意味で、

増加を目指すという目標値にしております。

○明石座長

はい。富沢部長、お願いします。

○富沢部長

KPIにつきましては、御覧になった方が納得してもらえるものになるように、表現なり、補足の記載なりを検討いたします。ありがとうございます。

○近藤委員

はい。それでは、先程のベクトルを逆にさせたいということが、原案では見えないので、そのように書いていただければと思います。

○明石座長

では、境委員、お願いします。

○境委員

また、これまでの意見を、反映させていただいてありがとうございます。

千葉県としての気合いとか意気込みといったそういうものがにじみ出ている、そういう内容になっていると思いますし、県民の皆様に伝えたいことが含まれていると感じております。

一方で、非常に長い文章となっており、よほどこれに興味のある県民でないと、読破するのが難しいような気もしております。この原案を概要としてまとめてはいただいていると思いますが、抜粋の仕方への御意見もあったところです。この地方創生総合戦略のバイブルになるものを、よりわかりやすく、例えば、一覧表や、もっと簡易にするにしても、興味を持って見ていただけるような工夫があると良いかなと感じた次第です。

あともう1点として、地方創生はゼロからスタートするわけじゃなくて、これまでに県や基礎自治体、企業もそうですが、努力をして、積み重ねてきていることもありますので、例えば、取組事例などが入っているとわかりやすいのかなと思いました。これはバイブルの中に入れるというよりは、別冊なのか別の方法なのかわかりませんが、そういう伝え方の工夫があると良いのではと感じました。

例えば、弊社の例で恐縮ですが、先日、物価高騰している中、富津市さんが、「ふつつんペイ」というデジタル商品券を実施しました。デジタル商品券を購入してもらったら、30%もプラスされるとのことで、メディアでも取り上げていただきました。そういう身近なところでわかりやすいものだと、じゃあ使ってみようかなっていうふうになると思います。

これは市民の皆さんもプラスになるし、処理をする職員も今まで紙の申込書をもって、その名簿を管理して、商品券を配布するといった作業をQRコードなどで行うことができる。しかもデータがたまるので、そのデータを次に活用するといった循環が回っていくような事例になるといいなと思います。このような、これもデジタル化なのかということが、県民の皆様にわかるような事例があるといいなと感じています。

また、成田空港の活用が原案の中にありましたが、葛飾北斎の浮世絵と木版画をデジタル

化したものを、2月中旬まで、成田空港の第2ターミナルサテライト3階（出国手続き後エリア）に巨大なものを入れていただいています。日本で遊んで、日本ハッピーだったなと思って帰っていく、そこに北斎の絵を見て、もう1回ここに帰っていきたいというふうに思っていたくような循環を、成田空港さんが今作っていらっしゃいます。そういう仕掛け、これは県の方だけではなく、地域の企業さんや住民の皆さんがアイデアを出してやっていると、変わっていくと思います。

あと、先週末に県の移住相談会をメタバース上でやったという報道もありましたし、防災教育も、鎌ヶ谷市や印西市の小学生の授業の中で、VRのゴーグルをつけて、自分が今いる体育館が水浸しになって、胸まで水が来ちゃう、どうしよう歩けないという体験してもらって、学校やおうちの備えをしてみましようという、行動変容を促す取組など、そういう身近な事例が、今たくさん出てきています。それを、それぞれの地域の課題を解決する取組やその地域に根付く取組を広く知ってもらって、事例から良さを実感してもらって、ただ、何でも与えられるだけではなく、自分たちがどういうまちにどういう県にしたいのかというものを想像してもらえるような、そういうものにできるといいかなというふうに感じた次第でございます。

県民へ伝える方法としては、皆さんもおっしゃっていますように、熊谷知事にチーバくんと一緒にでていただくとか。

あとは、若い方にアイデアを出してもらいながら、ポンチ絵で戦略を示すとしたら、どうなるといったものを若い方にアイデアを出してもらいながら、作ってもらって、コンテストをやる。それでティックトックで流せばいいかなと。この世界はバズったら勝ちという話なので、どうバズらせていくのか。これは、若い方々がアイデアを出されるといいかなあというふうに思います。午前中、弊社の若手社員と意見交換したけど、もうこの原案のような文字をAIに読ませると、すごいプレゼン資料になって出てきます。それでプレゼンしてくれましたが、そういう時代でもあるので、こう若い力の方がいいかなと実感として思っております。

○明石座長

はい。ありがとうございました。

では、矢萩先生、お願いします。

○矢萩委員

県の担当者におかれましては、前回から、更に内容を精査していただいて、今回の原案を示していただいたことに感謝申し上げます。

私は、保育・子育ての部分で、意見を事前に出ささせていただいて、それに対しましても細かく、対応していただきましたこと、感謝いたします。

どう県民に伝えたらいいかというところで言いますと、私、あまりデジタルに詳しくないのですが、パッと思いつくのが、例えば、大学の養成課程のテキストなども、今デジタル化が進んでいて、ただの紙の本ではなくて、ページにQRコードがついていて、そこにスマホ

をかざすと保育場面の事例の動画が出てくるようなものがあります。このように、紙面での情報量は少なく押さえられていても、奥行きが出る伝え方があります。出版社もこのような工夫をしてくださっているのです、本案についてもより伝わりやすくふさわしい形で情報を入れていくのが良いのかなと思います。

もちろん千葉がどういう現状にあるのかということは県民の方にも知っていただく必要があるのですが、第Ⅰ章は、とても大事ではありますが、本筋は第Ⅱ章の戦略のところなので、そこをリーフレット化したものか、もう少しコンパクトな情報のもの、より多くの県民の手に届くような形で、ホームページ上でもいいですし、紙媒体でもいいですが、そこでチーバくんがわかりやすく説明してくれる。そして、一緒に考えてみようという呼びかけをしてくれるといった工夫はどうでしょう。

また、子どもの立場から見てもわかりやすいことが必要だと思います。今、こども家庭庁のホームページの情報も大人向けと子ども向けの2つバージョンがありますが、子ども向けの方を読むと、意外とよく理解できたりするので、そのような説明の仕方のものであればいいのではないかなというのを感じました。

それからデジタルについて、原案の26ページから27ページにかけて書いてありますが、その育み・育ちのところで気になる点があります。「③デジタルが「育み・育つ」を変える」の部分に教育として、個別最適な学びと協働的な学びが書いてあるのですが、ここに子育ての部分が出てしまっていると思います。原案の20ページに課題が集約されていて、この「育む・育つ」（ここは「育む」となっていて、他の「育み」とは違っていています。）に課題として、先日来、話題になっている「子どもを生み育てやすいと感じる家庭の割合」の減少が挙がっています。子育てについては、孤立化してきており、保護者の不安、特に社会構造的に子育ての負担がかかりやすい母親の不安や負担を軽減するために何かデジタルが活躍できるのではないかなと思います。26ページにデジタルの活用として、理解しやすいようにと、「自動化、見える化、最適化、繋がる、分かち合う、個々に合わせる」という説明が載っていますが、必要な情報にどう繋がるかだけでなく、人と人とが、例えば、子育てをしている母親と母親がどう繋がるかとか、そういった対面でこそ得られる安心がありますので、対面と非対面の部分をデジタルが助けてくれて、そしてそれを上手く組み合わせるようなことについて、アの教育のことだけではなく、もう1項目、子育ての部分が入っても良いのではないかなと感じた次第です。

○明石座長

はい。矢萩委員、県民に届けるにはどういう工夫があればいいかということがありましたら、お願いします。

○矢萩委員

例えば、子育て支援事業も、学生と一緒に県内自治体のホームページを見ていくと、得たい情報にたどり着きやすいホームページのつくりになっている自治体とそうじゃない自治体との差があります。このことを知りたいが、どこまで見ていっても見えてこないといった、

格差がありますので、県として、そこに支援というか、情報の格差にならないように、導いてくれるような支援、どういうふうに辿っていけばその情報にたどり着けるのかという道筋を示してくれるようなものがあればと思っています。

一般の学生は、検索ワードを入れてみて探せなければ、それで止まってしまう傾向もあるようです。もう少し粘り強く、こっち側からも入って行って、また、こちらからも入ってみると、こういうふうに事業が実施されているのかと見えてくることもあるので、そのように情報を活用できる人材を育てることを、私たちもやっていかなければならないと思っています。

○明石座長

はい。ありがとうございました。

吉野委員、お願いします。

○吉野委員

冒頭申し上げたいのは、詳細に検討していただき、まとめていただいたので、そこについては全く言うことはないと思います。

広報について、どうしていくかということですが、手段をまず考えるよりも、考え方を整理するのが先かなと私は思っています。広報は、情報を発信し、アクセスしてもらって、理解してもらって、双方向のコミュニケーションによって理解してもらい、行動変容を促していくことが基本的なスキームだと思います。それぞれに適した手段というのがあり、手段を考えるには、誰に対して何をお知らせしていくのかということをよく考えてから、考えてもいいのかと私は思っています。

例えば、県民の方全員に全ての情報を理解してもらおうと思うのは、おそらく無理だと思います。そうしますと、得たい情報にアクセスするようなもの、例えば、極端に言うと、県民の方が、千葉らしいライフスタイルの中で、これからこういうライフスタイルをしていきたいと思った時に、そのライフスタイルをクリックすると、どんなことを県が一番頑張っているのかがわかるとか、それを自分も応援して、そのライフスタイルに自分になっていきたいなとなるとか。そういった逆引きというか、全体がまずあって、そこからどんどん落ちていくのではなく、小さな情報から、どんどん詳しい情報に辿って行って、最終的に全体を見たらええ、なおいいかなと思います。

そうすると自ずと、どういうやり方がいいのか、チーバくんを使って広報するにしても全体を伝えることは、多分難しいと思います。熊谷知事やチーバくんにやってもらうとすると、それにふさわしいのはどういう情報なのかを考えてなくてはいけない。見たい、知りたいたいと思わないと、人をその情報の入口まで持っていくのは難しいので、そこは相当注意して考えなくてはいけないと思います。情報の入り口まで持っていくって、あとは自分が興味を持っているところから、どんどん入っていけるような、インデックスというのでしょうか、そういうものを張り巡らし、飛んでいけるという形にすると伝わるかなと思います。

やはり、一般の方に、戦略の全体を見たらええことは、非常に難しい。ただ、考えなくて

はいけないのは、パブリックコメントをやる時と、一般的に広報する時は、やはり場面が違って、パブリックコメントは全体を見て意見を言っていただきたいと思うので、それなりの広報手段を考えなきゃいけない。一般の方たちが見る時には、戦略の目指すべき理想像である千葉らしいライフスタイルの創造を、こういう生活を皆さんと一緒にしていくためには、こんなことを皆さんでやっていきましょうよと伝えていく。それは、ライフスタイルを送る人たちだけでなく、それを支えていく人たち、我々、県全体がやっていこうという、そういったことができるような流れに持ってくるのが一番いいのかなと感じた次第です。

アクセスして、何を知りたいのかということをもまずはっきりしていただければ、そのところを充実してやれば、あとは入っていつてくれるかなと思います。委員の皆さんがおっしゃったように、網羅的に概要を書くよりは、思い切って、この人にはこの情報というような形で、提示してもいいかもしれませんね。例えば、新聞や雑誌等にプレスリリースするときには、同じものを出します。だけど、それ以外のところに情報を出す時には、その人に合った情報でもいいのかなと思っていますので、そのような情報発信の仕方をして、そこで何をやるかという、極端に言うと、FAQはよくあるじゃないですか。そこから入っていつて、逆に辿っていくような、全体から探していつて、見たい情報に辿りつくのではなくて、逆に、目指すべきものから入っていつて、何をやっているのか辿っていくというような形です。

情報発信の仕方は、今の若い人たちには、あまり対面で行うことは中々ないでしょうから、ホームページを使ってやるのが一番良いと思います。

あと、重要なのは、それぞれの分野に関係者がいると思います。例えば、県の関係者でも、部局の人でも、或いは関係団体とか協力団体とか色々あります。いわゆるステークホルダーはいると思うので、そういった人たちに、その分野へ広報してもらおうということ、やってもらってもいいのかなと思います。例えば、経済面で言ったら、産業振興センターだけでなく、私共、商工会議所もあります。商工会議所の経営指導員も小規模事業者に限られていますが、色々なところへ巡回していますので、そういったチャンスをうまく使っていただいて、少しずつ広報して行ってもらおう。戦略全体を説明するような分量のあることはできないと思いますが、簡易な内容でしたら、できると思います。ホームページが一番良いとは思いますが、人も相当な広報手段になるのかなと思った次第です。

○明石座長

はい。ありがとうございました。

吉野委員の発想は大事だと思います。例えば、今回の戦略は、働く、活躍する、育み・育つ、暮らすという4つのキーワードがあります。そこから入っていくことができるという形にすると、知りたい情報に辿りつきやすいかなという感じがします。

では、増田副座長、お願いします。

○増田委員

皆様の繰り返しになってしまいますが、今回の原案につきましては、事務局の方で、しっ

かりまとめていただいて、ありがとうございました。

原案への意見照会でも言わせてもらったのですが、令和5年12月の議会で制定された多様性条例も、調整してあり、細かいところまで見ていただけたのではないかと感じました。

ただ、今話題になりました、KPIの説得力はやはり必要だと思ひまして、なんでこの数字を目標値にしたのかという説得力はやはり大事だと思います。原案をめくって、色々な目標が出てきますが、これは何の目標なのかということ、素朴に疑問を持ってしまいました。

ぜひ、これを説明できるようなことを、簡単なことで構いませんので、追加していただくと、すごく説得力が上がるのかなと思います。

広報について、キーワードから入っていくことは、一般の方への日頃のPR的としては、すごく効果的だろうと思います。色々なところアクセスして、この戦略にこのことが書いてありますというところに辿りつくことは、とても素晴らしいことだと思います。

ただし、パブリックコメントを念頭に置いた時に、県として戦略を作ります、御意見をくださいと、全体を見ての御意見を募集しますので、逆引きからパブリックコメントにつながることは難しいのかなと感じました。

戦略や計画を、県で策定する際には、本編のほかにその概要版を大体作っています。その概要版をいかにわかりやすく作っていくかが、とても大事なことだと思います。ただ、パブリックコメントをするときには、概要版だけだと少し危なくないですかという話もありますので、その辺の工夫がとても難しいなあという心情であります。

項目立てを工夫したうえで、インターネットでの募集であれば、自分の気になる項目にアクセスしていただけるような作りができればと良いのかなと思っております。

○明石座長

はい、ありがとうございました。

各委員の方々から貴重な意見をいただきました。

私からも、27ページで、4 豊かな自然環境保全のところ、例えば、鮭の稚魚を小櫃川で放流するとか、千枚田をこれだけ保有しているとか、ウミガメの卵をよく守っているとか、やっていることを吸い出して記載してみるのはいかがでしょうか。

かつて、富山県は森林が多いのですが、枝落としや下草を刈る方がいないので、下草十字軍を募集してやっていました。枝落としも、この保全の1つとして何かあり得るかなと思います。

あとは、サッカー協会が1坪芝生提供運動というのをやっています。提供するだけでなく、1年に1回芝刈りもするのですが、そういう形で、グラウンドを芝生化しましょうかという提案をサッカー協会がしています。もう千葉県が筆頭になって、千葉県の自然環境の保全をこうしていくという姿勢を見せるのはいいかもしれない。また、NPOの団体が色々やっていることもあるのでそれを吸い上げて、出してくれるといいかなと思います。

もう1点、先程、概要版のつながりが良くないとの意見について、概要版の7ページにある千葉らしいライフスタイルの創造を資料の最後に持ってきたほうがいいかなと思います。

要するに、6 ページの第2期戦略を踏まえた課題、4 つのキーワード「働く、活躍する、育み・育つ、暮らす」があって、8 ページの第3期戦略にそれが繋がっている。そして、第3期戦略の基本目標で、色々な事業を行い、その目指す姿が千葉らしいライフスタイルであると示すために、最後に持ってきた方が、座りが良い。スゴロクのライフスタイルとか、6 つのライフスタイルとかね。私の持論で、千葉県は6が好きだと思っています。6月15日は県民の日だし、人口も全国で6番目に多い。そういう意味で、6つのライフスタイルを示すと面白いかもしれない。こういう形で、食いつきを良くすると、この原案に入ってきてやすらかなという感じはいたしております。

選挙運動において、スピーカーで流した文言を小学校3年生が繰り返すようになると当選するといわれている。要するに、小学3、4年生の耳に残るようなキーワードを使うと良いというのは、広報の世界にあるらしいです。そこまでいなくても、先程の意見でありましたように、知りたい情報をうまく検索できるような形で、更に動画を作ることをやっていただければと思います。

原案を読ませてもらうと、よく書いておりますので、あとはせっかくできた戦略をどういう方たちに知ってもらうかを考えていきたい。私は、市町村の職員の方たちにまず読んでいただきたい。あとNPOや企業等、団体の方に読んでいただくことが第1目標かと考えています。それから、大学生が読んでくれると良いかなという感じがしております。

本当に事務方がお忙しい中、頑張ってくれまして、本当にありがとうございました。

そのほか、全体的な御意見等ございますか。

では、富沢部長から一言、お願いします。

○富沢部長

3回にわたり、またその間にも、資料を読み込んでいただいたと思われま。丁寧に対応いただき、御意見をくださった皆様、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

今回も、きめ細やかに多数の意見をいただいたことで、より目指すもの、或いはすべきことなどが、より明確なものとなったと思っております。

我々にとってはより取り組みやすく、実効性を高めやすい戦略を作るように、皆様の御意見が非常にありがたかったなと思っております。

また、今回の策定懇談会までにいただいた多くの御意見を踏まえて、各部庁の担当者が懸命に検討を重ねてくれました。職員の成長にも繋がっているだろうと思っております。

本日は、改めて御意見をいただいて、今回、原案としてお示ししたものの、まだまだ手を入れるところもありますし、すべきこと、課題が浮き上がってきたなと思っており、検討していきたいなと思っております。

本当に皆様の御意見で、良いものが作れたと思っておりますので、ぜひこれを生かして、実効性のある戦略にしていきたいと思っております。これまでのご協力に感謝いたします。本当にありがとうございました。

○高橋課長

政策企画課長高橋です。

本当に、皆様方には丁寧に対応いただき、御意見をくださって、そして、非常に前向きな議論を毎回していただいたので、私たちもとても良い感じで、この戦略策定に取り組むことができました。皆様方には、本当に感謝を申し上げます。また今日のご議論も、広報について、私どもが考えてなかった、色々なアイデアをいただきましたので、これも実現に向けてやっていけたらいいなと思っております。

最後に反省としては、この原案を作るに当たって、今日いただいた意見の中のいくつかは私も思ったことでありまして、もっと強く担当に言って、そのようにしておけばよかったなと思うようなものもあります。やはり複数の人が思うようなことは、しっかり反映をさせていきたいと考えております。今回いただいた御意見を踏まえ、改めて修正した上で、パブリックコメントにかけたいと思っております。

本当にどうもありがとうございました。